

幸せになるための教育を実現する会議 要旨録

日 時 令和4年5月12日（木）午前9時30分～午前11時30分
出席委員 神谷、鈴木、大崎、曾根、三浦
そ の 他 市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長、企画課副主幹

【市長の想い】

幸せについて真剣に考えずに、安易に他者との比較で優劣をつけて、一喜一憂している事は問題である。幸せには様々な形があり、自ら幸せを考え、行動することで幸せになれる。

・半田市独自に、幸せ教育の実現のための基本的な方針

- ①自立した精神で、考える力を持つ子を育てる
- ②自分にとっての幸せとは何かを考える機会、深く考えるための様々な知識、経験を得られるようにする
- ③先生も子供たちと一緒にあって、幸せについて考え、幸せになる
- ④願わくは、自己中心的な行動で得られる裕福さを、幸せと考えつかないように導きたい

【今日の目的】 現在の教育についての課題点の共有

【会議の結論】

課題	必要なこと	対応策例（意見）
幸福感不足	教員も子供も褒める	教員、子供に肯定的意見を伝える 教科書による授業と主体的、対話的な教育のバランスが重要
教員が忙しすぎる	教員の余裕が生む	業務整理をして教員の時間を作る
学校ごとの個性が発揮しづらい	各学校、教員個々の自立を促す	保護者、地域のバックアップが必要 教員の学ぶ時間の確保

【会議の主な意見】

- ・幸せにを感じる子供が少ない ←幸せになるという意識が足りない、褒めるのが上手でない
- ・失敗をさせないようにする ←Teaching だけでなく Coaching（主体的、対話的）も重要
- ・コロナの影響があり、学校の地域性、独自性はより進んではいる ←しかし、親の声は気になる、学校の独自性は進み、変化するチャンス
- ・地域性に合わせて運営していくうえで、学校の独自性は必要である
- ・先生は褒められる機会がなく、業務を見直す機会もない
- ・P T Aを巻き込むことも大事である
- ・自己肯定感を育むことと、先生の業務改善は必要不可欠である
- ・先生たちの学ぶ機会を設けることが必要である